

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190900045		
法人名	有限会社 エムエス		
事業所名	グループホーム 紫陽花の路		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4714番地6		
自己評価作成日	平成26年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制が整っており急変時の対応が速やかにできる。またリハビリテーションとの連携もとれ理学療法士、作業療法士による足育(ひろのぼ体操)、言語療法士による音楽療法に取り組んでいる。併設の歯科より口腔ケア指導も実施され口腔内の管理も徹底できている。毎食前には介護職員による誤嚥予防の為に口腔体操にも取り組んでいる。食事面では体調に合わせた食事の提供ができ医療面からとの健康管理ができ入居者様、ご家族様も安心されている。法人全体での勉強会や関係医療機関の研修等にも参加しレベル向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は併設される医療機関や、系列のデイケアを利用する地域の馴染みの方が気軽に訪れ、入居者との面会を楽しんでおられる。近くの川やホーム周囲の散歩では、季節の移ろいを体感しながら散歩ができる環境にある。時には幼稚園児との交流もあり、地域とのつながり作りに努められている。医療面では緊急体制が整い、入居者や家族にとっても心強い。皆で過ごす共有空間は、間違えないようそれぞれの居室やトイレ等の扉が色分けされ、入居者の目線に沿った工夫がなされている。職員は、言葉掛けにも配慮し入居者の思いや願いを共有しながら、入居者が安心できる生活を過ごされるよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有できるようにホーム内に掲示し朝礼時に唱和する事でより良いケアの実践に繋げている。定期的に管理者と話し合いの場を持つようにしている。	日常の振り返りや、定期的な話し合いを通じて、気づきや改善策を理念に照らして、全員で考え支援につなぐよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し地域行事等の把握、地域のクラブとの交流などボランティアを受け入れている。隣接の診療所への通院の際には、デイケアご利用者様との交流もあっている。月1回併設病院、施設周辺の清掃活動も行っている。	民生委員や区長等の理解協力を得て、清掃奉仕に参加されている。また、地域からの見学者への説明や、保育園との交流を行うなど、地域とつながる日常的な働きかけを行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや行事を通し理解を深めて頂くよう働きかけると共に、散歩などを通し挨拶を交わす事でグループホームの存在をアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し入居者様の生活状況、健康状態、行事の報告や今後の予定等を知らせている。また意見交換を行い今後のケアに活かすように努めている。	会議は参加者より意見が良く出されており、双方向の会議となっている。家族には事前に手紙で通知し、参加家族からは熱心な発言もなされている。話し合いを通じ、より良い支援に反映される会議となるよう取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターより出席して頂き、地域の情勢や今後の介護保険の動向について情報を頂くようにしている。	市担当者とは、連絡情報交換等を通じて、良い関係作りがなされている。事業所の状況も報告し、理解を得て、問題や疑問点への助言や対応を受けるなど、協力関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全の為にベッド柵を使用する事がある。その際はご家族に説明し理解して頂き承諾を得るようにし面会時には近況報告を行っている。職員は併設の医療機関の身体拘束委員会に出席している。	玄関は施錠されておらず、拘束は行われていない。研修を通じて職員全員が拘束のないケアについて理解を深め、言葉掛けにも配慮した介護実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護する中で言葉遣いや接し方で気付いた点等は都度、職員間で話し合い改善に努めている。研修や勉強会にも積極的に参加するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する入居者はおられない。退所された入居者が申請しようとした際に立ち会う事で勉強する機会を得ることができた。今後も積極的に研修等に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書の内容を十分に説明し、不明な点や疑問点については丁寧に答えるように努めている。内容に変更があった場合は説明を行い同意承諾を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への案内を家族に出し出席された際に尋ねるようにしたり、面会時に直接意見を聞くようにしている。また玄関に意見箱を設置している。	家族と接する様々な機会を捉えて、意見を聞き、いつでも自由に発言してもらえるよう職員全員が心掛けられている。意見や申し出は、その都度協議検討を行い、運営に反映させるよう取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に代表者、管理者、職員で話し合いの場を設けるようにしている。	会議では職員が気付きを得られるよう積極的に発言を促されている。また、提案意見は報告を見ることができ、日常業務の中でも、自由に意見を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就職時に体調に合わせた勤務希望が出されている方に対しては対応されている。勤務表作成前に希望休みをとり、勤務表に反映させ職員からの相談にもものっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護現場の中で一緒に働きながら良いところを褒めるようにしながら指導を行っている。併設医療機関と合同で行われている各員会や研修会参加を積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内にグループホームやデイサービス、デイケアがあり職員同士で情報交換を行い、良い所は業務の中に積極的に取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人、家族に面談し困っている事、要望、生活歴を尋ね、入居前に職員間で情報の共有をする事で言葉かけなどにも配慮し安心して生活して頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族に面談を行う際は、話しやすい雰囲気作りに努め、困っている事や要望等を気軽に話して頂くよう言葉かけにも配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を良く聴き、併設事業者や他のサービス等の案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす家族と思い接し、できる作業などは一緒に行ったりしながら話を傾聴し馴染みの関係を築く事で叶えられる要望等には応えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活状況を記した手紙を家族へ送っている。直接伝えたい時は電話連絡をし情報の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はじめ友人の訪問時はゆっくり面会して頂けるよう、また再来して頂けるような言葉かけを行っている。また、診療所受診時に近所の方との交流もあり遊びに来て頂くよう声かけしている。馴染みの場所への外出は家族支援にて行かれている。	併設のデイケア利用の知人や、家族の来訪も多く、ゆっくり過ごせる時間を持てるよう配慮されている。また、買物外出や墓参り等、日常での地域との繋がりも、関係が継続できるよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を把握し共に食事やレクリエーション、行事に参加する事で関係を深め孤立されないように入居者間の仲介を行い、座られる場所等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切に、契約終了後も相談に応じている。併設病院へ入院されている方に対しては面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話、表情、行動、仕草、家族からの情報、気づきなどを記録に残す事で職員間で情報の共有を行い個別ケアに繋げている。	申し送りノートを活用し、日々の思いや意向を捉えられている。家族からの情報や、入居者ごとの趣向等を記録するノートも活用するなど、工夫を行い意向や思いの把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント聴衆時には訪問するように努め生活歴や生活環境を知る事で入居時のケアに繋がられるよう努めている。また他方面からの情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや身体状況の観察を行い記録に残す事で職員間で情報の共有を行い現状の把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族の意向を下に作成しモニタリングや計画書見直し時は話し合いを行っている。定期的、必要時には計画書の見直しを行いその都度修正している。	事前に家族の意向を確認し、入居者にも話しを伺い、職員の意見も含めて計画を作成している。モニタリングを行い、現状に沿った介護計画作成に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表や個人記録に入居者の状況等を細目に記録すると共に申し送りノートを活用する事で職員間で情報の共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を傾聴し対応できるサービスについては取り入れ、日々の生活が単調にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の訪問や近隣の美容室へ依頼したり、地域で活動されているフラダンスクラブの方と交流をしたりして楽しく生き生きとした生活を送って頂くよう工夫しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関が主治医の方は受診時に職員が付添い日頃の状況を伝え家族希望があれば主治医と面談もされている。他医療機関受診の時は家族支援をお願いし、その後診察結果、薬についての確認し情報共有を行っている。	併設医療機関をかかりつけ医とする場合は、職員が受診支援し、家族との情報を共有されている。他科受診は家族の協力を得て支援されている。また、緊急時対応も、常時可能な体制作りがなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所の看護師が担当である為、日頃より相談したり、来所時には状態報告したりしながら自己判断せずに看護師の指示を仰ぎ受診や看護に繋がられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居中の情報提供を行い、細目に面会に行き病院関係者との関係づくりに努め情報共有を行いながら退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでに看取りはないが、家族との連携をとりながら状態変化時等は随時説明を行い情報共有を行いながら支援している。	事業所としてできる限りの対応を整え、看取りマニュアルを作成されている。重度化の場合は家族・医療機関と状態に沿って、協議を行い支援をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設医療機関の勉強会に参加し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者の身体状況や出火場所によって避難の方法が変わるので職員間で避難経路や夜間帯の対応、連絡網についても話し合うなど安全に避難できる方法を検討しながら年2回の訓練を実施している。	消防署のアドバイスも受け、職員全員が避難方法等を理解されている。緊急時の連絡網も整備し、火災やその他の災害への対応へも対処できるよう訓練が行われている。しかし、夜間想定訓練や、地域との連携体制作りはこれからである。	夜間想定火災訓練を実施し、より災害時への安全性を高め、消防団や地域住民より、理解・協力が得られる関係作りがなされる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴、暮らしぶりなどを把握したうえで思いをくみ取り相手を尊重した言葉かけができるように配慮している。大事な話の時は居室で話すよう心がけプライバシーの保護に努めている。	生活歴など、アセスメント内容を職員全員が理解・共有し、個々の誇りや尊厳を損なわない言葉掛けや対応に努められている。また、入居者同士のプライバシーの保護や、居室で他者を気にせずゆっくり話を聞くなど、入居者とのよりよい関係作りが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を話しやすいよう雰囲気作りに努めると共に表情や仕草、行動から思いをくみ取れるようにしながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意向に沿った支援ができるよう焦らずゆっくりとケアをするように努め、本人の意向が確認できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望に沿い散髪依頼をしたり、その日に着る洋服を選んでもらったりしている。化粧品等については馴染の物もあり家族支援してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好確認し苦手な物については代替食にて対応し個々の体調に合わせた食事形態の提供を行っている。また、入居者の状況に応じできる事は手伝ってもらっている。誕生会の時は希望のメニューを準備している。	入居者の体調に合わせて、ご飯をやわらかくしたり、とろみをつけて食事がすすむ様にされている。外食は家族と出掛け、誕生会では誕生者の好きなメニューを聞き作られたり、その他、食事の準備や片づけなど、できる範囲で手伝ってもらい、食事を楽しめる支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設法人の管理栄養士による献立で栄養バランスは整っている。食事摂取量の確認を毎食行い水分補給にも努めている。嚥下状態の観察行い体調に合わせた食事形態をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。週2～3回併設法人の歯科より歯科衛生士の訪問があり口腔ケアしてもらい歯磨き指導や口腔内の状態を観てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向け定期的にトイレ誘導介助をしたり、希望時にトイレ介助を行っている。身体状況に応じポータブルトイレ使用をし尿測行う事もある。	入居者個々の排泄の兆候を捉えて、さりげなく誘導が行われている。また兆候が捉えにくい場合には、時間を見計らって誘導し、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い排便状況を把握し食物繊維の多い食事や水分補給に努めている。腹部マッサージや毎日の体操などで予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を心がけているが、本人の意向を尊重すると共に体調に合わせてながら気持ちよく入浴して頂けるように努めている。一般浴が無理な方に対しては特殊浴にての対応も行っている。	それぞれの体調に合わせて順番は自由に入浴することが出来る。入浴を拒まれる方には、脱衣方法を工夫し、心理的負担も生じないよう配慮した支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し本人の意向に沿い休息の声かけを行っている。症状に応じては足を拳上したり定期的に体位交換を行い、居室の温度、湿度をチェックして快適に睡眠できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書、お薬ノートを活用する事で用法用量などを理解できるようにしている。状態変化がみられた時は看護師に報告し指示を仰ぎ、薬変更時はケース記録に記載し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーション以外にも誕生会や季節を感じて頂く為の外出をし楽しみのある生活ができるよう工夫している。歌、踊りなど特技がある方は披露する場を設けたりして生きがいに繋がるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩をしたりしている。季節を感じて頂く為に季節ごとの外出をしたり、近隣にある障害者施設の祭りに参加したりしている。家族支援で遠方まで外出される方もおられる。	ホームの周囲や、川の畔を散歩したり、花見の際には元々住んでいた馴染みの所を車で通り、楽しんでもらうなどの工夫をしながら、日常の外出支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し管理する方が困難な方が多く、お金を所持されている方はおられない。必要時は家族に依頼し対応してもらったり、まれに職員と一緒に近隣のスーパーへ出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望された時には電話や手紙の手助けをしたりしている。年賀状は家族宛に本人が一筆でも書いて頂くよう職員で担当を決めて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には空気清浄器、加湿器を設置し臭いや湿度に気をつけている。床暖房とエアコンを併用し天井には空気を循環させる扇風機を設置し温度調整を行っている。ホールや廊下の壁には季節を感じられる装飾をしたり誕生会や各行事の思い出の写真を飾っている。	壁には季節感のある飾りや写真が掲示されている。室内全体の採光は柔らかく、温度湿度も管理され、居室やトイレ等はそれぞれ扉の色が異なり、入居者が混乱しないよう工夫され、安心して過ごす事のできる様、空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは入居者同士談話したりテレビを観たりしながら思い思いに自由に過ごされている。一人で過ごされたい方は居室に戻りゆっくりしたり、テレビを観たりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談時に本人が大事にされていた馴染みの物や使い慣れた物など希望の品物については許容範囲内で持参して頂くよう説明し安心して生活できるような工夫をしている。	居室は本人が希望されるものを持ち込まれている。日常生活に使用する茶碗などの食器も、使い慣れたものを使用され、入居者が居心地よく過ごすことの出来る居室づくりに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉の色を変えることで自分の部屋であることが分かるようにしている。廊下、トイレ、風呂場等必要な場所には手すりを設置している。玄関に椅子を置く事で靴の履き替えが自分でできられるような工夫をしている。		